Twitter
YouTube

明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.195
2023
1.11

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

地域の中でのコミュニティ・スクール

松が丘校区まちづくり協議会さんが、先日「Matsugaoka（冬号）」を発行されました。松が丘校区まちづくり協議会さんの 9 月から 12 月までの活動の様子が紹介されています。そして、地域の中で、コミュニティ・スクールの理解を深めようと松が丘小コミュニティ・スクール特集が組まれています。その結びに“今後も学校・保護者・地域、それぞれの視点でできることを考え、共に意見を出し合いながら子どもたちの未来、まちの未来を創り上げていきたいです！”と書かれています。コミュニティ・スクールが地域に受け入れられてきたんだなと感じます。コミュニティ・スクールに取組んできた中で、学校も、保護者の皆さんも、地域の皆さんも、変化を感じ始められているのではと思います。やってみないとわからない実感ですね。

また、松が丘小のインスタについても、“松が丘小学校公式インスタグラムを開設しています。ご利用の際には、Instagram（インスタグラム）アプリを自身のスマホに入手し（無料）、「明石市立松が丘小学校」で検索し、フォローしてください”と紹介されています。学校・地域・PTA の情報発信の共通のプラットフォームとして、これからどんどん活用されていくのではと思います。インスタグラムの講習会なんかが開かれても面白いのかなと勝手に妄想しています。

GIGA スクール推進を進める上でも対話を

明石市でも、タブレット端末の持ちかえりがいよいよ始まろうとしています。正月休みの間にネットで「GIGA スクール×家庭学習（信州大学佐藤和紀准教授）」と「GIGA スクール構想×保護者との連携（山梨大学三井一希准教授）」の有識者インタビュー記事が目に留まりました。その記事では、タブレット端末を活用した家庭学習の在り方や、タブレット端末を活用した学びの在り方など、保護者を含め、一般社会の理解を得ていく必要があり、対話の大切さが述べられています。例えばタブレット端末を持ちかえらせて“デジタルドリル”をやるだけであれば、紙がデジタルに変わっただけになってしまいます。タブレット端末を持ちかえり、家庭学習にどのように活用していくかといったことを学校だけで考えるのではなく、地域や保護者の皆さんと考えることで、タブレット端末を使っての学習に経験のない、大人の意識も変えていくことにつながると考えます。それも、

広い意味でカリキュラム・マネジメントに入るのではと思います。新年度の取組を考える上でもこのお二人のインタビューは参考になるのではと思います。インタビューも３分程度で、資料もダウンロードできますので、校内研修等で活用していただけるのではと考えます。

「GIGA スクール×家庭学習（信州大学佐藤和紀准教授）」
①https://www.youtube.com/watch?v=GRmJlwBqv6k　（YouTube）
②https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/39.html（インタビュー資料）

「GIGA スクール構想×保護者との連携（山梨大学三井一希准教授）」
③https://www.youtube.com/watch?v=kw-l1sxGlk0　（YouTube）
④https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/321.html（インタビュー資料）

①　②　③　④

学びの意図の説明に

この冬休みの期間中に松が丘小学校のインスタグラムでは、「松が丘小学校が大切にしていること」シリーズとして、学校の考え方を紹介し、そのあとに各学年の取組を紹介されています。それを見ていると、子どもの成長に関わる活動全体をマネジメントしていくのが、カリキュラム・マネジメントと捉えていることがわかります。例えば５年生の紹介では、「５年生の学び」として、次のように書かれています。（インスタグラム　team_matugaoka 参照）

５年生のスタートは「学校をステキにしよう」という取組から始まります。あいさつ運動や１年生に勉強を教えたり、そうじを強化したり、班でさまざまなプロジェクトを企画・実施します。今年度は来年度ペア学年になる幼稚園児や保育所児と交流し、就学時健康診断のお手伝いもしました。３学期はいよいよ、「松が丘サミット」です。地域の方々と話し合いを行います。昨年度はコロナのためオンラインで行いました。学校の課題から地域の課題へ。自分たちの思いや考えを学校や地域づくりに生かす、それが本校の５年生の学びです。

これをしなければならないではなく、未来を生き、未来を創る子どもたちに必要な資質・能力を培うために、「学校・地域の課題を知り、地域や学校づくりに参画するステージ」として子どもたちの学びをデザインし、修正し、価値づけを行っていっているように思えます。このように、　校内で、また保護者と地域に学校の取組を見える化しながら、共有していくことが学校・地域・保護者の間で、子どもの未来に向けての対話につながるのではと考えています。　（文責：北本）